



## 人になること &lt;2&gt; 榎本栄次

聖書科の教師として週1時間の授業をさせていた  
だいていた。なかなか授業に乗ってくれなくて苦勞す  
る。生徒たちは別にキリスト教を求めてこの学校に來  
たわけではない。仕方なしに付き合っているのだろう。  
騒がしいのはしかたない。生徒もしんどいだろうが、  
教えるこちらも辛いのだ。

前は授業が成り立たず、敗残兵のような気持ちで  
授業を終えた。帰途につき駐車場に行くと、車のドア  
が壊されていた。Nの仕業に違いない。生徒を呼び  
出して叱る勇気もない。どうしたものだろうと思ひ悩む。

なぜか窮地に置かれると「やったる」という気が湧  
いてくる。とは言え、情けない。次の週学校に行くの  
が辛かった。行きたくない。いつもはジャージ姿で授業  
に来ていたが、この日は白いワイシャツにネクタイ、ス  
ーツ姿で出向いたものだ。不登校の生徒や、職場  
拒否の人の気持ちがよくわかる。怖い。また騒がれた  
らどうしよう。屠り場に引かれる仔羊のように足が重い。

教室に入ると「オオー」という声が上がった。いつも  
と違ってスーツ姿なのでびっくりしたようだ。私もびっ  
くりした。黒板一杯に私の似顔絵が描かれている。  
「すだれ禿」と大書して悪口を書いている。それだけ  
ではない、教卓の上にゴミが山のように積まれている。  
ゴミの上から赤や黄色に白、青のチョークの粉が振  
りかけられ、ジュースや水をかけて汚らしいことの上  
なしである。生徒たちはじっと私の様子をうかがって  
いる。先週の授業混乱の元凶であるNは最後尾では  
なく今日は一番前の席で頬ひじをついて私の顔を見  
上げている。

どうしてくれよう。こういう場合は、強行で行くか、柔  
らで行くか、中途半端はいけない。しばらく考えて一息  
ついた。上着を脱いで椅子に掛けた。柔らで行こう。  
こう決めてゴミ箱とバケツとぞうきんを持ってきて、ゆ

っくりと掃除を始めた。だれも手伝おうとしないで押し  
黙っている。できるだけ大きめに丁寧にするのがいい。  
そう思いながらバケツに水を汲んで、ぞうきんを絞った。  
ジュースやチョークの粉が散ってシャツやズボンが汚  
れる。きれいなスーツ姿も形無しである。構わず雑巾  
がけをしていると、何人かが「ア、アー」と注意とも  
れるあきれた声を出す。教卓とその周りをキレイにし  
た。

次は黒板。それにしても禿げた頭の似顔絵をうまく  
描いている。美術部の生徒がやったのだろう。黒板  
を隅から丁寧に拭いた。黒板消しが汚れてしまうと、  
窓から外に向かってはたき、何回か繰り返し隅から  
隅まできれいに黒板を拭いていった。黒板消しも奇  
麗にした。

なんでこいつら一人も手伝おうとしないのだ。情け  
ない。そう思いながら服の汚れを払い掃除用具を片  
付けた。授業開始時間から20分は経っていた。その  
間だれも何も言わないし、じっと様子を眺めている。  
「さあ授業を始めるぞ」この日の私の第一声である。  
するといちばん前にいたNが、  
「そこにゴミが落ちてると」指さした。見ると紙切れが落  
ちていた。カーツときたのはこの時だった。私の中で  
「キレ」かかった。

「何言いやがる。おめえなんか怖くないぞ。いい加減  
にしやがれ。『そこにある』とはなんだ。おめえのゴミだ  
ろう。馬鹿野郎！」こう叫んでやろうとした、その時、  
「待て。Nは手伝ったんだ」という声がどこかから聞  
えてきた。あ、そうだ。Nは「そこにある」と言って彼なり  
に手伝ったのだ。みんなの手前、手伝ったり、謝っ  
たりしたら格好がつかない。でも心は痛い。彼なりに精  
一杯の手伝いなのだ。

「ありがとう」こう言って拾ってゴミ箱に入れた。  
教室全体がしーんとした。次号へつづく

## おさそい

11月9日(木) 13時30分

聖書をいっしょに読みましょう ⑦

座長 榎本栄次(関西セミナーハウス活動センター所長)

11月11日(土) 13時30分

修学院フォーラム～社会～「宗教と戦争を考える(4)」

内村鑑三の戦争観

講師 岩村祐介(関西学院大学神学部教授)

11月23日(木・祝) 9時～16時

関西セミナーハウス もみじまつり

・お茶席、邦楽席

・展示「水墨画の世界」・演奏「和太鼓の響き」

12月16日(土) 13時30分

修学院フォーラム～社会～核兵器禁止条約を知り考える集い

「なぜ日本は「核兵器禁止条約」に賛成できないのか

—何が日本を守るのか—

講師 冨田宏治(関西学院大学法学部教授)

『きらら坂』へのご献金 順不同・敬称略

君村千代子、米澤敏子、黒井久代、東千代、  
山本絹子、武山美登里、藤本和子、佐々木絃児、  
佐々木公子、南和子、山本良昭、鈴木一志、  
安野優美、榎本璋子、小久保正、小久保玲子  
ありがとうございました。

## 投稿 京都俳句きらら会

- ・映像の花火も次は外で見ると 拘置所0
- ・秋風にページ繰らるる窓辺かな 佐々木公女
- ・蹲踞(つくばい)の水面に映る秋の空 松本茶香
- ・柔らかき土にこぼして菜種蒔く 原田岳

—お願い—

・グランドピアノお譲りください

関西セミナーハウスではグランドピアノを必要としています。ご家庭にお知り合いにもお使いになっていないグランドピアノがございましたら、ぜひご一報くださいませ。

## なんどきですか

- ・もみじの季節になってきた。きらら坂は錦の飾りで彩られる。もみじまつりの準備が始まった
- ・怖ろしい。北朝鮮のミサイルは恐ろしい。それより恐ろしいのはアメリカや日本が北朝鮮を理由に戦争を始めるのではないかということが恐ろしい。日中戦争もベトナム戦争も、イラク戦争も意図的に確かではない何かの理由で戦争が始まった。
- ・それに対して、韓国の対応には切実な気持ちとすこさを感じる。アメリカや日本の圧力にもかかわらず、対話と融和の姿勢を崩さない韓国大統領文氏の姿勢には頭が下がる。これこそ国を守る人ではなかろうか。
- ・クリスマスに向けての風が吹き始めた。今年も良き年で終わりたい。

\*\*\*\*\*

発行所 関西セミナーハウス活動センター

発行人 所長 榎本栄次

電話 075-711-2117

住所 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

## セミナーハウスの四季だより

### 苔の輝き

やたらと桜の落ち葉が目立つようになってきました。朝、日本庭園あたりで、落ち葉掃除をしていると、山鳩の番(つがい)が大きな紅葉の木に止まっているのをよく見かけます。

いつもと同じ番かな(独り言)しばらくすると偶然か「クッカー」と返事が返ってきます。

朝一番に日本庭園の苔に水撒きをしますが、水をやるとしぼんだ葉が一斉にパッと花が咲いたように開きます。杉苔についた水滴がお日さまに当たるとまるで宝石か真珠のように無数にキラキラと輝き始め、庭一面がしっとりとなって、これから一日が始まるという躍動感が感じられます。

庭園の片隅や石垣の間に目をやると、ねじれ草やつるぼといった草花が慎ましく咲いており、その姿が心を和ませ、ゆったりとした気分させてくれます。これから少しの間だけ清心庵西側のガケ池の萩が目を楽しませてくれます。

山荘の周りに息づく小さな動物たち、木々や草花などがさりげなく私たちに四季の移ろいを教えてくれているようです。

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光